いのちと地域を守る

石巻みづほ第二幼稚園の被害

周囲水没 屋根へ避難

＝教頭・佐藤順子さんの証言

送迎バスに乗り込んだ子どもたちを見送り、職員と卒園文集の製本を始めたときでした。突然、激しい揺れがきました。別棟にいた預かり保育の子どもたちが心配になって、夢中で駆け寄りました。

バスが園に戻り、運転手らが「（ラジオで）大津波警報が出た」と叫びました。急いで子どもたちに上着を着せ、園舎2階のホールに集めました。迎えにきた保護者の対応もしました。1時間があっという間に過ぎました。

窓から石巻工業港に目をやると、いつもは木や建物に遮られて海は見えないのに、茶色の波の壁と、その上に白い泡が見えました。「津波が来た！」「脚立で屋根に上げろ」。園長の指示で、1階の屋根の上に準備していた二つ折りの脚立をはしご状に伸ばし、3・5㍍ほど高さのある2階の屋根に立てかけました。

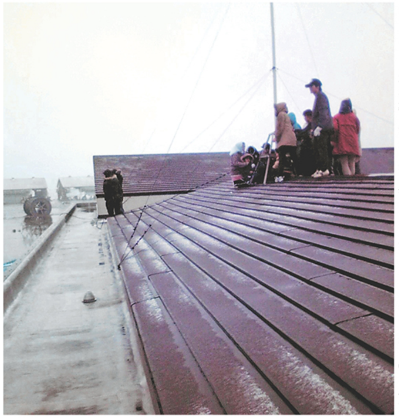
はしごを上ったのは3～5歳の園児11人を含む24人です。はしごを押さえながら、よじ登る児童に「右、左、右、左、頑張れ！」と励ましましたが、内心、焦っていたと思います。私が上る時、津波は1階の屋根にかかってました。

緩やかな三角屋根の頂点に子どもを集め、アンテナの針金をつかませました。周囲は水没し、地獄のような状況でも、泣く子はなく、真剣な目で私たちを見つめていました。「津波が収まったら、おうちの人が迎えに来るからね」と励まし続けました。

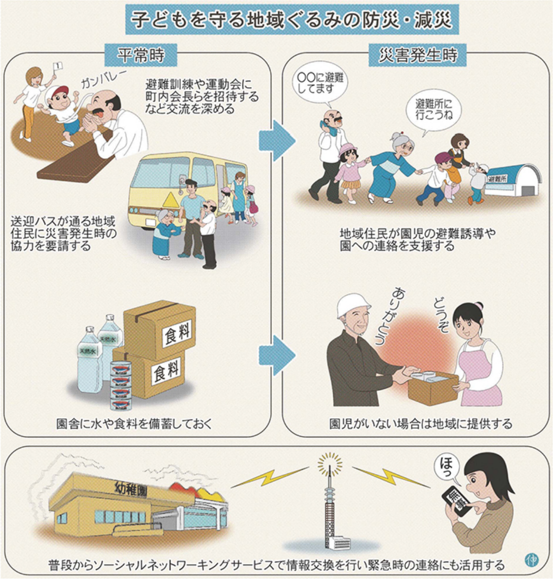
午後7時ごろ、携帯電話の明かりを頼りに2階に戻りましたが、電話でまた津波が来ると聞き、再び屋根に上りました。とても寒く、体操用マットなどで「おうち」を作って子どもたちを覆いました。2階に戻ったのは翌12日の午前2時です。

夜明け後、海上保安庁のレスキュー隊に救助され、海上自衛隊の護衛艦で2泊し、ヘリで石巻専修大に運ばれました。

保護者に引き渡し終えたのは15日昼ごろです。避難を始めてから、子どもたちは誰も泣きませんでした。忘れられません。



周囲を大津波の濁流に囲まれ、園舎の屋根の上に逃れた石巻みづほ第二幼稚園の園児と教職員ら＝2011年3月11日（幼稚園提供）


子どもを守る地域ぐるみの防災・減災
平常時
災害発生時
ガンバレー
避難訓練や運動会に町内会長らを招待するなど交流を深める
送迎バスが通る地域住民に災害発生時の協力を要請する
○○に避難してます
避難所に行こうね
避難所
地域住民が園児の避難誘導や園への連絡を支援する
天然水
食料
園舎に水や食料を備蓄しておく
ありがとう
どうぞ
園児がいない場合は地域に提供する
幼稚園
ほっ
普段からソーシャルネットワーキングサービスで情報交換を行い緊急時の連絡にも活用する

地域交流 災害時に生かす

減災・復興支援機構理事長

木村拓郎さん

幼稚園の防災対策は大変だとあらためて実感した。園児が多い時間帯や通園中に大地震などの災害が起きた場合、幼稚園だけでの対応は難しい。周辺住民に手伝ってもらい、一緒に子どもを守る地域ぐるみの防災、減災を考える必要があるだろう。

送迎バスが通る地域の自治会に対し、事前に災害時の協力を要請しておくことを勧める。東日本大震災では、宮古市で中学生が幼稚園児を背負って高台に逃げた例があった。地域や学校と連携すれば、対処できることが増える。

避難訓練は、複数のケースを想定して実施してほしい。孤立状態に備え、最低限の水や食料の備蓄も重要だ。園児がいない時間帯の災害ならば、地域の人に提供できる。

緊急時の保護者への情報伝達に関してはパソコンやスマートフォン（高機能携帯電話）を使い、ソーシャルネットワーキングサービス経由でやりとりする方法もある。

阪神大震災では、時間がたってから精神面に不調を抱える子どもが出てきた。東日本大震災でも注意した方がいいかもしれない。

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。

第８回「むすび塾」は12月２日、宮城県山元町の花釜地区で行います。

■むすび塾に参加して――石巻みづほ幼稚園・石巻みづほ第二幼稚園

【避難の反省点】 園児の名簿やラジオ付きの手回し充電式ライト、救急用品を入れたリュックサックを用意していたが、屋上に逃げる際に置いていってしまった。**ラジオも明かりも必要だった。** 重要な書類も持ち出せず、後で困った。

＝石巻みづほ第二幼稚園教員・鈴木恵美さん（34）

【震災体験の伝承】 少しずつ記憶は薄れてきている。家庭で子どもに震災での出来事をきちんと伝え、**避難の仕方などを話し合ってほしい。** 震災に触れたくない場合は、もう少し時間がたってからでいいと思う。

＝石巻みづほ第二幼稚園教頭・佐藤順子さん（53）

【参加して】 送迎中に津波警報が出たら、**海側から内陸や近くの山に移動すること**を再確認している。大勢の子どもを預かるので、気を引き締めて業務に当たりたい。

＝送迎バス運転手・伏見己津留さん（48）

【避難時の体験】 屋上に逃げた後、水位がいったん下がったので2階に戻った。夜、津波の再来に備えて屋上に戻ったが、**携帯電話の明かりしかないため真っ暗で怖かった。** 遠くで起きている火災が見え、子どもの体力も心配だった。

＝石巻みづほ第二幼稚園教員・千葉麻里さん（35）

【震災体験の伝承】 担当している4歳児は震災発生時に2歳か3歳で、当時のことはあまり記憶がないと思う。大人になったときに震災のことを覚えていれば防災に役立つ。**震災体験の伝承は必要だと思う。**

＝石巻みづほ第二幼稚園教員・岡山仁見さん（33）